

補習授業校情報交換会

オンライン授業以外の選択肢

各地の開始時刻

2020年4月22日(水)

US太平洋	7:00AM
US山岳部	8:00AM
US中部	9:00AM
US東部	10:00AM
英国等 (西ヨーロッパ)	3:00PM
仏独等 (中央ヨーロッパ)	4:00PM
香港等	10:00PM
日本	11:00PM



・マイクのミュートを解除して
お話しください。

<画面の設定>

右上/左上のボタンや画面スワイプで切り替わります。



スピーカー・ビュー

話している人が大きく見えます。



ギャラリー・ビュー

多くの参加者の表情が見えます。

出席者所属校

アイルランド

イスタンブール

エドモントン

オマハ

カースルーエ

グリーンビル

ケルン

コルマール

コロンバス

甲府市立大國小学校

サウスカロライナ

三育学院サンタクララ校

ダービーシャー

ダラス

中部テネシー

デトロイト

デュッセルドルフ

ニューポートニュース

ニュルンベルク

ハイデルベルク

ハンブルク

ピッツバーグ

ブダペストみどりの丘

プノンペン日本人学校

フランクフルト

ヘルシンキ

ベルリン中央学園

北東イングランド

マルセイユ

ミネアポリス

ミラノ

ヨークシャーハンバーサイド

ロチェスター

ワシントン

本日の次第

1. 現況報告
 - ・ダービーシャー日本人補習校
2. 情報・意見交換

ご参照ください

AG5補習授業校情報交換会資料（2020年4月5日）

<https://www.ag-5.jp/post/detail/13>

AG5ウェブサイト

<https://www.ag-5.jp>

補習校教員交流Facebook

<https://www.facebook.com/groups/1664125650300837/>

海外子女教育振興財団（JOES）

<https://www.joes.or.jp>

英国ダービーシャー日本人補習校 対応

2020年4月22日 ミーティング資料

作成： ダービーシャー日本人補習校 佐藤

学校概要

- 小学準備部1クラス、小学部6クラス、中学部3クラス、高等部2クラス（高2/3 複式）
- 国語3校時（高等部は2校時）、算数数学2校時の授業を実施
- 年間授業日 41日（基本） 令和2年度は41.5日の計画

コロナ関連対応の流れ

2月末 現地借用校より、2月中休みに日本へ一時帰国した児童生徒は3週間登校しない旨通達有。

3月初 全校朝会で、UK政府指針に沿ったコロナ予防策の紹介。

3月中旬 英国内でコロナ感染者数が増え始め、3月21日の修了日、修了証書授与式の実施可否を検討。やむなく休校とすることを決定。その後、英国政府が国内の学校を休校とする指針を発表。

☆修了日の休校・・・英国では死者が70名以上出ており、日々感染が拡大し始めていた時。修了証書授与式をしたい、証書を本人に渡したい、送辞答辞を皆の前で発表したい、というそれぞれの思いを超えても「命」を第一に考え、休校を決断。

4月中旬 4月18日の入学式、始業日、25日の授業日を実施しないことを決定。あわせて、5月2日より何らかの形で新学期を開始することを全家庭へ通達。

対応方法① 修了日の対応

- 修了証書、通知票は各家庭へ郵送。転出家庭へは転出関連書類も同封。
- 修了証書授与式で実施を予定していた児童生徒の送辞答辞は、念のために3月14日に個別にビデオ撮影をしていた。ホームページにて関係者・保護者限定で公開を予定（作成中）。
- 校長より全家庭へ連絡メール 春休み中に、新しい学年の教科書、元年度の学年の国語・算数数学以外の教科書を読んでおくこと、日々の日記をメモでもよいから書いておくこと、毎日10分でもいいから空を見て庭の景色を見て今の季節の自然の息吹を感じてほしい、と伝えた。また、参考になる家庭学習サポートサイトや読売新聞ワーク通信なども添付している。

対応方法② 新年度教科書、教材

- 教科書は借用校への出入りが可能なうちに国語と算数数学を持ち帰り、全家庭へ郵送。
- 指導書、副教材は到着を待っているところ。
- 新小1は、入学式実施のかすかな望みをもって当初は郵送せず。が、現況を鑑み5月2日の開始までに届くよう郵送の予定。名札を同封する。

対応方法③ 授業形態

- 4月上旬より運営委員会とスカイプ会議、メールのやり取りにて、①4月中の開校有無 ②5月2日登校不可の場合の対応策検討 ③講師へのヒアリングと依頼内容 ④家庭のIT環境調査 ⑤授業日数 ⑥授業料と講師謝金のあり方 等を検討（一部継続中）。
- Google Classroomにて各学級と学校クラスを設ける。授業形態は、「ビデオ授業＋課題」。9：30の始業時間をベースに、ビデオと課題の組み合わせで一授業日相当分の学習を行う。
- 初日5月2日は始業式を学校クラスルームで実施。校長からのビデオメッセージと、各担任からの自己紹介ビデオ（一人30秒程度）を配信。校歌も配信し各家庭で歌ってもらう。その後、各学級のクラスルームへいき学習開始。
- 全家庭、本校ホームページ限定のGoogleアカウントを作成し各クラスへ招待。
- ビデオ授業は最大30分。5分～10分程度の細切れがいくつかが望ましい。短いコマビデオの中に指示を入れ活動させたり講師と一緒にできる活動（音読など）を入れていく。
- 小学部は保護者にサポートをしてもらう。低学年、小学準備部は保護者に先生役になってもらうこともある。
- 課題は各講師それぞれに工夫。GoogleのForumを使用して簡単なテストなども可。低学年は親子で一緒にが原則。
- プリンタ・スキャナがない家庭、現地校の課題のプリントでインク不足が心配な家庭もあるため、課題はノートをできるだけ使ってもらい、提出する際も写メを活用してもらうことを計画中（写メでの提出は100%可）。
- 作文添削も写メで送られたものへのコメントを入れるなど、従来と異なる方法で実施する予定。
- 現在講師が試行錯誤しながら、提供していく授業内容を検討している。

対応方法④ 年間計画

- 一学期に予定していた運動会は中止。
- 一学期の終業日を一週延ばし、当初予定の14授業日を実施する予定。
- 二学期以降の補習校活動についてはUK政府指針、借用校の状況・要請を基本として検討を続行。

オンラインライブ授業（Zoom等）を検討したものの採用しなかった理由

- 家庭のネット環境や考え方が異なるなかでの実施は難しい。
- 学年やクラス人数による配慮、子どもの個々の集中具合やライブ手法への適合性などもあるかもしれないと考え躊躇。
- 講師ヒアリング時に、大学等での遠隔ライブ授業経験者は負荷が大きくなることを懸念する声も多く、経験者以外は全く未知の世界であり、十分な研修や準備時間の確保が難しいため躊躇。
- 講師の技術に大きな差が出てしまう。

- 低学年の不安要素。
- セキュリティ、安全面、プライバシーの点など。

ただし、今後状況次第で高等部や中学部などでは必要な場合にはオンライン遠隔授業を検討する可能性は残しておきたい。

ビデオ授業で良いと思われるところ

- 音読練習を、先生と一緒にペース・読み方で練習ができる。何度でもできる。
- 指示や指導の分からないところを再生で戻って確認できる。
- ライブ授業のように友達を見ることはできないが、先生からのメッセージや友達の意見をクラスルーム上や先生を通して知ることができ、つながっている感覚をもって勉強に臨める。
- 一端末あれば兄弟が複数でも時間をずらして学習ができる。
- 原則、欠席が生じない。

ビデオ授業で難しいところ

- 講師により技術の差がついてしまうところがあるのは否めない。
- とっかかり、慣れるまで保護者にしっかり理解いただくことが大事。
- 友達がそばにいる実感がライブ授業に比べて薄いところ。

大事にしたいところ

- 外出制限で不安も多い中、子どもたちに帰属感を持たせて安心させてあげたいと思った。つながっていること、自分の居場所があることが、きちんと伝わってほしいと思う。
- 先生が笑顔で「おはよう、〇〇くん」と名前を呼んで出席を取ってくれること、それだけでも安心感を子どもが持って笑顔になってくれたら嬉しい。
- 教室で授業が再開できた時に自信をもって臨めるよう、学習モチベーションを高め、家庭で自分がすべきことをしっかり学んでおけるナビゲーションをしてあげること。

課題

- プリント量を制約しながら、課題に取り組みさせること。ノート使用を推奨するが、それをどうやって講師が見て必要な修正や添削をしていくか。プリンタ・スキャナの有無や講師のIT技術力にもよって工夫をしたり、できることを見極めていかななくてはならない。
- 保護者の理解と納得、協力が家庭ごとに異なる可能性があること。普段でもそうだが。。。
- 学んだ手ごたえをどのように講師や子どもが実感していくか。
- 通知票評価のつけ方を考えなくてはならない。

アイデア提出およびご協力いただける学校の募集

ニュルンベルク補習校
根元 貴代

学習指導略案

学年：中学校

指導科目：総合的な学習

1 単元名：SDGsについて学ぼう

2 単元の設定の理由

○ コロナウイルスの感染拡大によりニュースで各国の対策はもちろん、国連の組織であるWHOの活動が取り上げられる現在の状況は、持続可能な社会を実現するための17のゴール(SDGs)を生徒自らが関心も持って調査し、国連の役割や「誰一人取り残さない」という考えを追究していくきっかけとなる。

○ また各国の補習校の講師が情報交換をし、知識を共有し前進するように、生徒たちにもこの繋がりを還元することで、生徒の知的な好奇心を刺激し、探究的な見方・考え方を働かせ視点を増やすことができる。

3 単元の目標

(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

プロジェクト学習の流れ

- ① 自宅での調べ学習・・・国連のホームページを見てSDGsをプリントに詳しくまとめる
- ② コロナ禍によって深刻な影響を受けていると思われるゴールを選び出す
- ③ 選んだゴールについて、なぜそのゴールを選んだか意見交換
- ④ 選んだゴールから全員で一つテーマを決め、行政や国が現在行っている対策、またすべきだと考えられる対策をまとめる
- ⑤ 日本の協力校や世界中の補習校と、④で作成した資料を交換し、A4一枚のフィードバックにまとめる
- ⑥ フィードバックを送り合い、④で作成した資料を一冊にまとめる

<メモ>

- ・大きな批判を浴びているWHOの代表に何か事情があったのか調べ、考えてみる
 - ・国ごとにコロナの影響で問題となるSDGsに差があるのか、もしくは世界的に同じ問題に悩むのか
 - ・SDGsの根幹にあるのは「誰一人取り残さない」という想い。オンラインで授業ができない学校もある中でどうしたら下級生が「誰一人取り残さない」で学習できるか導入として考えてみる
- =学校をよくしたいという想いが生徒の中にもあることに気が付かせ、その想いを「世界」に発想を広げてほしい